人に学び･物に学び･自然に学ぶ

三室中だより

《学校教育目標》 令和８年度第6号　令和８年９月２５日(金)発行

自ら学ぶ生徒の育成 心豊かな生徒の育成 健康でたくましい生徒の育成

さいたま市立三室中学校
〒336-0912 （ばんば）
さいたま市緑区馬場1-38-2
学 校　048-874-2331
FAX　048-810-1125
相談室　048-876-1731
http://mimuro-j.saitama-city.ed.jp

歌は心、合唱は心合わせ

校　長　　中村　篤

９月１８日、レイボックホールにて校内合唱祭を開催しました。短い練習期間の中、生徒たちは限られた時間を使って、歌声を重ね、クラスごとに『自分たちの合唱』をつくり上げていきました。当日は、ホールいっぱいに広がる歌声と一人ひとりの真剣な表情に触れ、練習の日々を思い浮かべながら、私自身も胸が熱くなりました。

かつて学級担任だった私にとっても、合唱祭は特に思い出深い行事の一つです。金賞という目標があるからこそ、クラス全員が一つになって練習に取り組みます。その過程では、気持ちがそろわなかったり、練習に向かう姿勢に温度差があったりすることもあります。担任として、学級委員や実行委員とともに呼びかけても、思うようにいかず、悔しさや歯がゆさを感じ、時には涙したこともありました。それでも、そんな時間を乗り越えて、最後にクラス全員が精いっぱい歌い切ったとき、そこには順位だけでは測ることのできない、そのクラスにしかないものが生まれるのだと思います。これまで多くのクラスを見てきましたが、本番でうまく歌えたかどうかよりも、後になっても生徒たちの心に残るのは、そこに至るまでの過程なのではないかと感じています。

今回、特別審査員として、長年音楽教育に尽力されてきた高澤眞由美先生をお招きしました。最後の講評で、先生は次のようにお話しくださいました。

「私は、歌うときには『言葉』を一番大切にしてほしいと思っています。今日歌った歌詞をもう一度思い浮かべてみてください。本当にその歌詞のように思って歌っていたでしょうか。歌詞の意味をみんなで深め、同じ思いを共有して歌うことが、聴いている人の心に思いを届けることにつながると思います。そして、私は“歌は心、合唱は心合わせ”という言葉を大切にしてきました。声は口から出ますが、歌は心で歌うもの。そして、合唱は一人ではできません。仲間と心を合わせることが大切です。また、音楽は演奏する人だけではなく、聴いてくれる人がいて初めて成り立つものだと思います。だから、これからも難しく考えすぎず、歌うこと、演奏することを純粋に楽しんでほしいと思います。そして、これからもぜひ歌い続けてください。」

“歌は心、合唱は心合わせ”この言葉は、合唱だけに当てはまるものではないと思います。人の思いは、声の大きさや技術だけでは伝わりません。中学生の時期は、考え方や感じ方の違いから友達とぶつかることもあります。しかし、それを避けるのではなく、話し合いながら折り合いをつけていく経験こそが大切なのだと思います。クラスの仲間と気持ちがすれ違うことがあっても、だからこそ話し合い、声を掛け合い、もう一度同じ方向を向く。合唱祭で経験したその姿勢は、これからの学校生活の中でもきっと生きていくはずです。

金賞や銀賞という結果だけでなく、一緒に悩み、一緒に努力し、心を合わせながら一つのものをつくり上げた過程を大切にしてください。合唱祭で得た“心合わせ”を、これからの学校生活につなげていってほしいと思います。